

特定非営利活動法人 日本免疫学会
Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICI
研究発表報告書

申請者氏名	本村 泰隆	会員番号	0026521
申請者の 所属・職名	東京理科大学 総合研究機構 ポスドクトラル研究員		
出席会議名	15th International Congress of Immunology		
発表論文 タイトル	<u>IL-4 derived from basophil play a pivotal role in cysteine protease-induced natural helper cell-mediated lung inflammation</u>		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award for the 15th ICI を賜り誠に有難うございました。岸本先生をはじめ選考委員の先生方、また推薦人となってくださいました東京理科大学 生命医科学研究所 分子病態学研究部門 久保允人教授に深く御礼申し上げます。私は、平成 25 年 8 月 22 日から 8 月 27 日にイタリア ミラノで開催された 15th International Congress of Immunology に参加し、これまで東京理科大学のポスドクトラル研究員として従事してきたアレルギー病態における好塩基球の役割についてポスター発表を行ってきました。

我々は、近年見出されたリンパ球細胞であるナチュラルヘルパー細胞によって誘導されるアレルギー病態において、好塩基球から産生されるサイトカイン Interleukin-4 が、重要な役割を担っていることを見出し、本学会において報告させていただきました。有難いことに、多くの方々が、私のポスターに関心を持っていただき、質問やコメントをしていただきました。そのなかで、これまで気づかなかったことや違った観点からの意見をいただくことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。一方で、日本では英語でディスカッションするという機会がなかったため、思うように伝えることができなかった場面が多々あり、自分の語学力のなさを痛感いたしました。この経験により自分の研究を新たに展開できる道が見えてきたことと自分の足りない部分を再確認できたことは、とても貴重な体験になりました。

また、本学会を通して一番驚いたことは、世界における研究の展開の速さです。シンポジウムおよびワークショップにおいて、自然リンパ球に関する研究発表の演題数の多さから、世界的に注目を浴びている分野であることが実感できたことに加え、ものすごい勢いで研究が展開されていることを目の当たりにしてきました。さらに、多くの研究室では、次世代シーケンサーによる解析など、日本ではまだあまり浸透していない最先端の研究技術が当たり前のように用いられておりました。急速に展開されているなか、この競争の中で、自分も戦っていかなくてはならないと思うと一瞬気負いしてしまいましたが、負けてなるものかと改めて自分自身を奮い立たせることができました。

以上のように、本学会において得られた経験により、自身の研究だけでなく、研究に対する考え方、さらには多方面からのアプローチのために異分野への関心を持つ必要性を考えさせられました。この経験を活かし、今後の自分の研究に精進していきたいと思えます。